

ニュースから考える

個人的に興味のあるニュースで恐縮ですが・・・「女性の戦闘機パイロットが誕生」しました。



航空自衛隊新田原基地の松島美紗2等空尉(26)は身長159センチの細身ですが男性同様の厳しい訓練を乗り越え F15

戦闘機を操縦するためのライセンスを取得しました。

小学生の頃、アクション映画「トップガン」の影響で戦闘機パイロットに憧れ防衛大に入学、タイミング良く防衛省が15年11月に戦闘機パイロットへの女性の起用を決定した事もあり女性1期生に抜擢され夢を実現させました。

女性パイロットの採用はわが国のみならず世界中でも広がっており UAE(アラブ首長国連邦)空軍では ISIL(イスラム国)への攻撃作戦で女性戦闘機パイロットが指揮官を務め、また皆さんもご存知、ブルーインパルスなど卓抜した操縦技術が必要なアクロバット飛行の分野でも中国空軍では女性戦闘機パイロットが誕生しております。

ただ・・・戦闘機のパイロットは領空侵犯の恐れのある外国の爆撃機や戦闘機に対するスクランブルが義務付けられており武器をもった航空機との接触という大変危険な仕事です。また戦闘機パイロット以外にも自衛隊では潜水艦への女性の起用が決定しています。

危険な仕事の分野でも女性の活躍がなければ成り立たない時代となりつつあるようです。

1分でわかる業務カイゼン

「人手」と「後継者」不足

日本中で「人」が不足しています。正確には、社員が集まらないことによる労働力の不足「人手不足」と親族間の事業承継がままならない事による「後継者不足」の二つの問題があります。



「人手不足」は労働力のミスマッチも原因の一つですが戦闘機パイロットのみならず、俗に「ガテン系」とよばれる工事現場やダンプ・トラック

の運転手にも女性の活躍が目立ちます。また定年退職した人材、障がい者、外国人労働者などの有効活用、一人がいくつも仕事を掛け持ちするなど「人」の確保について多様化した時代がやって来ました。

もうひとつの深刻な問題として最近話題に上るのが「後継者不足」です。政府も税制改正など事業承継対策に積極的です。またM & A(企業買収)も当たり

前のように耳にします。優秀な後継者がいない企業は廃業か・・・事業売却の選択を迫られているのです。

いずれにしても労働力としての「人」、会社の未来を担う後継者として能力がある「人」を確保できない企業は存続の危機にあると言えます。

「労働力」を「人財」に育てる

第100回全国高校野球選手権で準優勝した金足農高(秋田)は少数精鋭で話題となりました。

一部飛びぬけて優秀な選手もいましたが無名に近かった公立高校が活躍できたのはチームの結束の強さ、一人一人が自分の役割を理解し、行動したからこそその結果です。

当たり前ですが・・・中小企業はいつも「労働力」は不足気味です。足りない人材が「人財」に成長しなけ

れば総合力で規模の大きな企業に太刀打ち出来ません。中小企業にとっては一人一人の成長こそが企業発展のエネルギー源と言えます。

退職の原因・・・



当事務所では採用した新入職員を毎年、ある団体の社員研修に参加させています。当初 12 名いた研修受講生が驚く事にたった4ヶ月で3名も会社を辞めたようです。他社の話ではあります

ますが新入社員に問題があるのか、会社の問題があるのか・・・両者にとって時間とお金の大きな損失です。

実際、中小企業の資金には限りがあり、労働力不足を長時間労働で乗り切ろうと経営者がいる一方、少ない労働時間で多くの給料を貰いたいと従業員が考える事もあり立場の違いによる矛盾があるのは仕方ありません。

しかし、理想の経営者、理想の社員がいないのが現実です。せめて経営者はせっかく採用した「人」を「人財」や後継者へと育て上げる気構えと忍耐という努力をしなければなりません。なぜなら人がいない会社に未来がないからです。

「石の上にも3年」ということわざを社員、経営者の双方がかみしめなければなりませんね・・・それが両者にとっての未来につながるからです。

「人」の大切さを改めて考える必要があります。

事務所からのお知らせ

会社の健康診断として経営分析を行っていますので担当者にお尋ね下さい。また、お知り合いの経営者でお悩みの方がおられましたらお気軽にご相談ください。

今月の経営のヒント : 社員の平均勤続年数



今月のことば

会社の為に働くな。

自分が犠牲になるつもりで勤めたり、物を作ったりする人間がいるはずない。だから、会社の為などと言わず、自分の為に働け。

(本田 宗一郎)

編集後記:

ひと昔前ですが求職難で資格を取れば何とかかなという風潮がありました。当時私が通っていた資格取得の専門学校でも夜学の時間、脱サラを目指す多くの「おじさん」や若者で溢れていました。しかし、時代は変わり今では公務員受験校が人気ようです。

一方、「おじさん」と呼ばれるほどの歳ではありませんが何らかの理由で脱サラし国家資格を取得し、ご挨拶に来る方がたまにいます。こちらも何かお手伝いしたいと考え「何がお得意ですか」と質問するのですが・・・「これから勉強します」との答えが返ってきて困惑します。

どんな仕事であっても知識と経験がなければお客様からお金を頂く事が出来ません。当事務所におきましても一層の知識と経験の向上が必要だと改めて感じております。(寿)

当事務所のお客様の最近の黒字決算割合 (T K C が証明するデータを使用しています)

最近 1 年間 : 76.5%

(国税局の発表によると法人の黒字割合は 33.2% (28 年 4 月 ~ 29 年 3 月) です)